

共助

~共に助け合う~ 近所で、地域で、協力しましよう



地域の防災訓練の日を知りたいわ。



8月・12月・3月の年3回開催しているよ。
地域の回覧板や市ホームページ、広報やいづなどでお知らせしているから確認してね。



親子サークルなどで、防災の勉強をしたいけれど、お願いできる場所はあるの?

焼津市の防災部では、出前講座を実施しているよ。
消防防災センターの防災学習室「しえ～る」でも、地震体験や風水害体験ができるから、訪れてみるのもいいね。

防災訓練で地域防災力を強化

市では、市内一斉開催の市民参加型防災訓練を年3回実施しています(右表1)。

いつ発生するかわからない地震に備え、季節や時間帯、テーマを変えた実践的な訓練を行うことで、市全体の防災力の向上を図っています。

■訓練の様子

各自主防災会が計画した、各地域特性に合わせた訓練が実施されています(右表2)。大規模地震発生後は、地域で助け合うことが重要です。日頃から訓練に参加し、災害に備えましょう。



【表1】市内で実施している防災訓練	
訓練名	開催時期
総合防災訓練	8月の最終土曜日
地域防災訓練	12月の第1日曜日
災害時初動訓練	3月の第1日曜日

【表2】防災訓練で行われるさまざまな訓練

訓練の内容	訓練の趣旨
避難訓練	津波や倒壊家屋から命を守る
安否確認訓練	地域住民の安否確認を通して、救助が必要な人を把握し、救助活動につなげる
避難所開設・運営訓練	避難所生活のイメージを共有し、運営に向けて備える
消火訓練	消火器の使い方を習得する
炊き出し訓練	非常食の炊き出し方法を習得する

市民防災リーダー育成講座

災害に備えて地域でご活躍いただく「防災リーダー」を育成するための市民向けの講座です。

これまでに1,500人以上の皆さんが受講し、地域の防災活動をけん引しています。

■講座の概要
対象 市内在住または市内在勤の人
開催日 7月～8月の土曜日(全3回)



知識や技術を地域に役立てよう



出前講座

防災部職員が、市内へ出張し、防災知識や災害に対する備えなどについてお話しします。
お気軽にご相談ください。



■講座の概要

対象 自主防災会、事業所、学校や地域コミュニティ団体など



主な講座メニュー

- ・災害への家庭内対策
- ・避難所の開設運営
- ・避難所運営ゲーム(HUG)
- ・地震体験車
- ・AEDの取り扱い講習
- ・負傷者の搬送方法
- ・被災地での支援活動紹介
- ・風水害への備えなど



消防団活動

消防団は、火災や大規模災害が発生した時、職場や自宅から現場へ駆けつけ、消火や救援活動などを実行する市町村の非常備の消防機関です。



平時は、地域の防災リーダーとして防災訓練での指導のほか、応急手当講習や火災予防活動など、地域住民の安全安心を守る重要な役割を担っています。



市内では555人の消防団員が地域の安全を守っています。



マスコットキャラクター
「火ノ用ココロ」
©瀬戸口みづき



自助

~自分の命は自ら守る~

備えを充実させて、心にゆとりを



過去の被災地では、トイレ問題が話題になっていたよね。
やっぱり我が家でも備蓄しておいたほうがいいのかな?



大地震後はトイレ使用注意!



大地震が起きた後は、トイレの点検をするまで、水洗トイレの使用は控えましょう。

いつもと変わらないように見ても、排水管や浄化槽が破損している可能性があります。大地震後のトイレは、市ホームページで下水の利用に制限がかかっていないことや、排水管や浄化槽に問題がないことを確認した上で使いましょう。



国土交通省
災害時トイレ
パンフレット



絶対必要なトイレ対策



トイレを我慢するストレスと不安感が重なると、体調を崩してしまうことも。

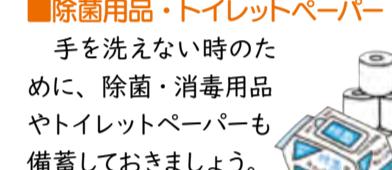
災害時に自身と家族の健康を守るためにも、「携帯トイレ」や「簡易トイレ」を備蓄しておきましょう。トイレが使用できない時でも自宅で用を足すことができるようになります。



汚物袋を便器にセットして凝固剤を入れる
用を足した後、袋をしっかりと結んで廃棄



簡易トイレ
便器や簡易トイレに取り付けて使う、袋と凝固剤・給水シートがそろったもの。



除菌用品・トイレットペーパー
手を洗えないために、除菌・消毒用品やトイレットペーパーも備蓄しておきましょう。

災害後、トイレ使用可否の判断方法

■戸別の浄化槽

漏電がないか、プロアが正常に稼働しているか、汚水漏れがないなどを確認してから利用を再開してください。

■公共下水

市ホームページや市公式LINEなど
で利用再開をお知らせします。



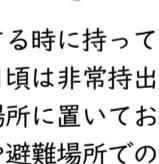
非常持出品と備蓄品

災害用の備蓄には、「非常持出品」と「備蓄品」の2種類があります。



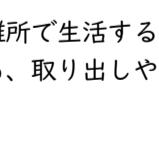
■非常持出品

発災直後に避難場所へ避難する時に持っていく、発災後3日分の備え。日頃は非常持出品袋に詰めて、持ち出しやすい場所に置いておきましょう。常に必要なものや避難場所での暑さ・寒さ・雨風対策、避難のための明かりの確保などを考えて、発災直後に困らないようにそろえましょう。



■備蓄品

発災後約1週間、自宅や避難所で生活するための備え。家屋が被災しても、取り出しがやすい場所に保管しましょう。

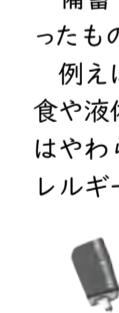


元気をつなぐ水とごはん

どんな時でも、水と食べ物は体力の資本です。調理せずに食べられる非常食を3日分と調理して食べる非常食を4日分、合わせて最低計7日分の家族の食料と水を備蓄しておきましょう。

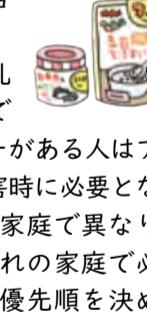


備蓄のこつは、普段食べている缶詰やレトルト食品を多めに買っておくこと。食べたらその分を補充することで、常に備蓄することができます。

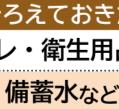


備蓄で重要なのは、家族に合ったものを用意することです。

例えば、子育て世帯では離乳食や液体ミルク、高齢者世帯ではやわらかい食品、アレルギーがある人はアレルギー対応のものなど、災害時に必要となるものは、各家庭で異なります。それぞれの家庭で必要なものを、優先順を決めて備蓄することが大切です。



買う



ローリングストック



食べる



備える

備蓄品は身近なお店でも取り扱っているほか、インターネット通販などでも購入できます(右表)。

いざという時に備え、用意しておきましょう。

そろえておきたい備蓄品	主な販売場所
携帯トイレ・衛生用品など	ドラッグストア
非常食・備蓄水など	スーパー・マーケット
ヘルメットやテントなどの雑貨類	アウトドア用品店
ラジオやモバイルバッテリーなど	家電量販店

備蓄品は身近なお店でも取り扱っているほか、インターネット通販などでも購入できます(右表)。

いざという時に備え、用意しておきましょう。

そろえておきたい備蓄品	主な販売場所
携帯トイレ・衛生用品など	ドラッグストア
非常食・備蓄水など	スーパー・マーケット
ヘルメットやテントなどの雑貨類	アウトドア用品店
ラジオやモバイルバッテリーなど	家電量販店

このページの問合先

■災害後、トイレ使用可否の判断方法 下水道課 624-8304

■その他 地域防災課 623-2554

このページの問合先

地域防災課 623-2554